

2011東北沖地震発生後10分後のパルス津波・電磁気現象について On the tsunami and electromagnetic pulses appeared around 10min. after the 2011 Tohoku earthquake

*榎本 祐嗣¹、山辺 典昭¹、杉浦 繁貴²、近藤 斎²

*Yuji Enomoto¹, Tsuneaki Yamabe¹, Shigeki Sugiura², Hitoshi Kondo²

1. 信州大学 上田キャンパス Fii, 2. コンボン研究所

1. Shinshu Univeristy, Ueda Campus Fii, 2. Genesis Reserach Institute, Inc.

2011年東北沖地震発生から約7-10分経って津波の発生とそれに伴って地磁気（偏角と水平成分）や電離層電子数に正のピーク変動（Heki, GRL, 2011;Utada et al. EPS Lett., 2011;Tsunagawa et al. EPS Lett., 2011）が現れた。電離層への擾乱は津波による大気重力波が影響したと考えられている。しかしこのモデルで、江刺で観測された地磁気の変動は説明できていない。そこで地磁気変動の説明のために筆者らは津波パルスの発生に伴って正帯電のミストが大気重力波とともに大気電場に沿って上昇したとのモデルを提示する。

キーワード：地震電磁気、津波、地磁気変動

Keywords: Seismo-electromagnetic phenomena, Tsunami, Geomagnetic change